

第 6 学年国語科学習指導案

日 時 平成 16 年 11 月 5 日 (金) 5 校時

場 所 花巻市立南城小学校

学 級 6 年 1 組 (男 16 名 女 14 名 計 30 名)

指導者 馬 場 直 幸

- 1 単元名 二 言葉と文化について考えよう (光村図書 6 年下)
「外来語と日本文化」 渡辺 実 文 神山 博光 絵

2 単元について

(1) 児童について

第 5 学年及び第 6 学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。

児童は第 6 学年になってから、「筆者の考えと事実を読み取ろう(火星に生命を探る)」では、問題を解決するために行われた観測や調査や、それに対する筆者の考えを読み取る学習を行ってきた。また、文章構成をとらえながら要旨を短くまとめる学習を行ってきた。

このような学習を通して、児童は問題提示、説明、結論、筆者のまとめという説明文の基本的な構成をとらえながら事実と筆者の考えなどを区別して読み取ることができるようになってきている。しかし、文章の大事なところを落とさないように短く要約したり、読み取ったことを分かりやすく書きまとめたりする力は、まだ不十分である。

(2) 単元について

本単元は、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の順に学習を進めながら、三領域全てについて学習する総合単元である。「外来語と日本文化」「現代に生きる五音、七音」では、言葉に関する興味関心を持ちながら要旨をとらえる学習を、「『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」では、前教材で学習したことをもとに言葉や文化についての調査活動を行い、調べたことをまとめて発表させる学習展開になっている。

「外来語と日本文化」は、言葉と文化の関係を長い史的背景と共に日本と外国との交流を追いながら考察している文章である。三つの大段落で構成されている。第一段落は課題の提示、それを受けて第二段落では事例を挙げて課題の解明をし、第三段落で要旨を簡潔に述べている。

本教材は、すっかり日本語の中に溶け込んでいる外来語を取り上げているため、児童にも身近に感じられ、理解しやすい形になっている。

「現代に生きる五音、七音」は、日本独自のリズムで表されている短歌や俳句、歌詞などを例に挙げながら、言語文化の一面に触れることを目的としている。

「『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」は、言葉について調べたり、作品を作ったりすることで、児童自身が言葉と文化の関わりの様子を実感するための教材である。また、調べたことを発表することによって、知識として得たことを確認し合うことができるようになっている。

(3) 指導にあたって

「外来語と日本文化」では、次のような段階を踏んで指導することにより、児童一人一人に説明文を読解する力を身につけさせるようにしたい。

- ・文章の内容を理解するために、すらすらと音読ができるようにする。
- ・今までの説明文学習を想起しながら文章構成をとらえさせる。
- ・段落ごとの要点を確認しながら、文章全体の要旨をまとめることができる。

「現代を生きる五音、七音」では、五音、七音を基調とした作品を児童に繰り返し音読させることによって、リズムのよさや内容の楽しさを味わわせるようにしたい。

また、『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」では、2つの教材で学んだことを関連づけながら、身の回りでよく使われている外来語や俳句などを集めさせ、言葉と文化の関わりを感じさせるようにしたい。

3 単元目標

【関心・意欲・態度】

- ・言葉と文化に興味を持ち、課題を解決するために進んで調べたり、学習に取り組んだりしている。

【話すこと・聞くこと】

- ・調べたことをもとにして、自分の考えをまとめ、相手によく伝わるように発表している。

【書くこと】

- ・調べたことの中から必要な事柄や資料を選び、自分の考えを含めた発表原稿を書いている。

【読むこと】

- ・言葉と文化について考える目的で文章を読み、内容を的確に押さえながら要旨をとらえている。

【言語事項】

- ・言葉の由来や歴史、特質などについて理解を深めている。

《評価規準》

【関心・意欲・態度】

- ・学校や公共の図書館などから言葉と文化に関する資料を探して読んでいる。

【話すこと・聞くこと】

- ・調べたことがよく伝わるように、必要な資料を提示しながら話している。

【書くこと】

- ・全校児童に紹介するという目的や意図に応じて、詳しく書いたり、効果を考えながら書いたりしている。

【読むこと】

- ・文章構成を押さえ、内容を短く要約しながら要旨をとらえている。

【言語事項】

- ・言葉に関する自分の課題について、整理してまとめている。

4 単元の指導・評価計画(12時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	オリエンテーション 本単元の学習の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 新聞のテレビ欄の中で外来語はどれくらい使われているのか調べさせる。 全文を読み、感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本単元の学習に興味を持ち、疑問に思ったことや初めて知ったことを含めながら感想を書いている。
二	2	□の内容を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 今までの説明文学習を振り返らせる。 □を読み、問題提示文を要約してまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を要約しながら問題提示文をまとめている。
	3 (本時)	□の内容を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> カルタ、カルテ、カードなどの外来語は、「いつ」「どこから」「どのようにして」伝えられたのか読み取り、表にまとめさせる。 外来語の意味が変わってしまったわけをまとめて書いている段落文章を見つけ、要約しながらまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> カード、カルタ、カルテなどの外来語が伝わってきた経緯を正しく読み取っている。
	4	□を読み、文章全体の要旨をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 形次第段落の内容を振り返りながら文章構成図をかかせる。 文章全体から重要と思われる部分を要約しながら要旨をまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体を振り返りながら要旨を正しくとらえている。
	5	「現代に生きる五音・七音」を読む。	<ul style="list-style-type: none"> 音読しながら、内容やリズムのよさを感じ取らせる。 言葉の学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌謡や標語、短歌などを音読し、リズムのよさや覚えやすさなどを体感している。
三	6	「言葉と文化」展示館を開くための準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある3つのコーナーからやりたいテーマを選び、グループ作りをさせる。 学級の友達と昼食時のテレビ放送で全校児童に紹介するという目的を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉と文化」展示館の学習に興味を持ち、進んで取り組もうとしている。
	7 8	グループごとに調査活動を行い、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 調べる視点を明確にし、どのようにまとめるかはっきりさせながら活動を進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる視点をしっかり持ちながら、調査活動に取り組もうとしている。
	9	中間発表会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学級の児童を対象に、できているところまでの発表会を行う。 見る側には、課題を選んだ理由を述べていたか、調査の方向性ははっきりしていたか、説明はわかりやすかったか、などの観点を持たせながら聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことが見る側によく伝わるように考えながら発表しようとしている。 見る観点を意識しながら聞き、発表者にアドバイスをしている。
	10 11	資料を完成させ、発表会に向けての準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表会での助言をもとに、付け足しや修正を行わせる。 聞き手を意識した発表ができるように練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表会で受けた助言をもとにしながら、よりよい発表になるように練習・準備をしている。

	12	「言葉と文化」展示館を開く。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに場所を設定し、どのグループの発表も見られるように時間差で発表させる。 ・見る側の観点と感想が書けるような用紙を準備し、発表会後に書かせる。 	・中間発表のときより、調べたことが相手によく伝わるように工夫しながら発表している。
課外		昼食時の放送で発表する。	・代表のグループにテレビ放送で発表させる。	

5 本時の指導(3 / 1 2)

(1) 目標

- ・カード、カルタ、カルテの3つの言葉の意味が狭くなり、違う言葉のようになったわけを要約しながら読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価	準備物
導入 (5分)	1. 学習課題を確認する。 カード、カルタ、カルテなどの外来語は、いつ、どのようにして日本語の中に入ってきたのか読み取ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題表を活用して一斉読みで確認する。 		紙板書
展開 (35分)	2. 学習する段落を音読する。 3. 問題を解決するために取り上げられている事例を読み取る。 4. カード、カルタ、カルテなどの外来語の意味の違いが生じた理由をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・形式段落ごとに指名読みをさせる。 ・カード、カルタ、カルテなどの外来語は、「いつ」「どこから」「どのようにして」日本に伝えられたのか読み取り、表にしてノートにまとめさせる。 ・文章を抜き書きするのではなく、短く要約して箇条書きでまとめるように助言する。 ・書いた表を隣同士で比べ違いに気づかせる。 ・外来語の意味の違いが起こった理由が書いてある段落・文章を見つけ、まとめさせる。 	カード、カルタ、カルテなどの外来語が伝わってきた経緯を正しく読み取り、表にまとめている。 A 大事な言葉を入れながら文章を短く要約し、表に書くことができる。 B 教科書の文章の中から必要な部分を抜き出し、表に書くことができる C 重要な文章を確認してから考えさせる。	紙板書
終末 (5分)	5. まとめの音読をする。 6. 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返りながら学習した段落を一斉読みさせる。 ・本時の自分の学習の仕方はどうだったか振り返り、感想を書かせる。 		振り返りカード

(3) 板書計画

<p style="color: red; font-weight: bold;">意味の違いが生まれた理由</p> <p>カード、カルタ、カルタの意味のちがいは、これらの言葉をもたらした国々と日本との交わりのちがいが反映している。</p>	<p>←</p>	<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; border-color: blue;"> <tr> <th style="width: 33%;">カード</th> <th style="width: 33%;">カルテ</th> <th style="width: 33%;">カルタ</th> <th style="width: 19%;">言葉</th> </tr> <tr> <td>江戸時代の末</td> <td>江戸時代の末</td> <td>室町時代のおわり</td> <td>いつ</td> </tr> <tr> <td>イギリス アメリカ</td> <td>ドイツ</td> <td>ポルトガル</td> <td>どこから</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;"> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋文化がたくさん入ってきた。 ・イギリスとアメリカとは、いちばん広く深く交わったので、英語からの外来語は数も多く、意味も広いままで使われているものが多い。 </td> <td style="font-size: small;"> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋文化がたくさん入ってきた。 ・西洋文化に追いつこうとした日本は、西洋の国々からそれぞれの長所を学ぼうとした。 ・医学は主にドイツから学んだ。 </td> <td style="font-size: small;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル人はキリスト教を広めに来た。初めて見る西洋人はすべてがめずらしかった。だから新しい品物の名や宗教に関係ある言葉が入ってきた。 ・西洋人が教と模様を書いた厚紙で遊ぶのが日本人の心に強く残った。 </td> <td style="font-size: small;">どうしようもない</td> </tr> </table>	カード	カルテ	カルタ	言葉	江戸時代の末	江戸時代の末	室町時代のおわり	いつ	イギリス アメリカ	ドイツ	ポルトガル	どこから	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋文化がたくさん入ってきた。 ・イギリスとアメリカとは、いちばん広く深く交わったので、英語からの外来語は数も多く、意味も広いままで使われているものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋文化がたくさん入ってきた。 ・西洋文化に追いつこうとした日本は、西洋の国々からそれぞれの長所を学ぼうとした。 ・医学は主にドイツから学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル人はキリスト教を広めに来た。初めて見る西洋人はすべてがめずらしかった。だから新しい品物の名や宗教に関係ある言葉が入ってきた。 ・西洋人が教と模様を書いた厚紙で遊ぶのが日本人の心に強く残った。 	どうしようもない	<p style="text-align: center;">言葉と文化について考えよう</p> <p style="text-align: center;">外来語と日本文化</p> <p style="text-align: center;">渡辺 実</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>カード、カルタ、カルテなどの外来語は、いつ、どのようにして日本語の中に入ってきたのか読み取ろう。</p> </div>
カード	カルテ	カルタ	言葉																
江戸時代の末	江戸時代の末	室町時代のおわり	いつ																
イギリス アメリカ	ドイツ	ポルトガル	どこから																
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋文化がたくさん入ってきた。 ・イギリスとアメリカとは、いちばん広く深く交わったので、英語からの外来語は数も多く、意味も広いままで使われているものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋文化がたくさん入ってきた。 ・西洋文化に追いつこうとした日本は、西洋の国々からそれぞれの長所を学ぼうとした。 ・医学は主にドイツから学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル人はキリスト教を広めに来た。初めて見る西洋人はすべてがめずらしかった。だから新しい品物の名や宗教に関係ある言葉が入ってきた。 ・西洋人が教と模様を書いた厚紙で遊ぶのが日本人の心に強く残った。 	どうしようもない																

(4) 座席表

黒板

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

名前	
情意面	認知面

- 情意面 : 国語の学習に対して積極的である。
- : 国語の学習に対して消極的である。
- 認知面 : 内容の読み取りがよくできる。
- : 内容の読み取りが不十分である。